

第1回 2019年4月17日(水) : 第12期 一流塾 第1回・開塾式

2019年4月17日に第12期の一流塾が開塾しました。塾生は、「チャレンジ精神を持った起業家」、「2世・3世の後継者」、「大企業の経営幹部」の三種混合の計45名(平均年齢45.6歳)と過去最多となり、業種、規模、地域が異なる様々な企業から志の高い経営者や経営幹部が集いました。そのうち、女性塾生も過去最多に並ぶ10名です。



一柳塾長

第1部では、一柳塾長から開塾の挨拶に続き、「出でよ、志ある経営者たち」と題して講話を頂きました。冒頭では、「卒塾するまでにこれくらい自分を磨いて大きくなろう」というイメージをもって、皆勤を目指し学んでほしいと話されました。そして、塾長と想いを共有するホンモノの講師陣に本音でぶつかり、視野を広げ、一流感覚を身につけながら一人一人の資質を磨いてほしいと語りかけました。また、講師陣や仲間達と積極的に交流し、良いネットワークを築き、一步踏み出して行動し、人間力を高めることが重要であると伝えられました。最後に、過去の延長線に答えがあるのではなく、答えは自分で作り出す時代。自分の名前で生き抜ける力を身につけて、世界に出ても負けない魅力的な人間になってほしい。と塾生への期待と激励をお話し頂きました。

その後の塾生による1分間スピーチでは、それぞれの仕事や入塾に対する思いなどについて自己紹介が行われました。



福川特別顧問

第2部の開塾式では、一流塾特別顧問の福川伸次氏((一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学総長、元通商産業事務次官)、同じく一流塾特別顧問の斉藤惇氏((一社)日本野球機構会長 日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー、(株)KKR ジャパン KKR Global Institute シニアフェロー、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループCEO)、一流塾顧問の渡邊五郎氏(元三井物産(株) 副社長)、特別ゲストの残間里江子氏(プロデューサー、club willbe 代表)をお迎えし、塾生への激励のお言葉を頂きました。

福川氏からは、一柳塾長が官僚を辞めて独立し、次代を託す経営者を育てようと強い想いで一流塾を創設したことをご紹介頂きました。日本の力、存在感、が落ち、技術面でも立ち遅れている中、日本を支える人としてどう考えていくか、吉田松陰の言葉を借り「志をたてることが全ての始まり」であり、この一流塾で、何を学ぶのかを自ら考えてほしいと、塾生への期待をお話し頂きました。



斉藤特別顧問

斉藤氏からは、国の財政や人口減少など現在の日本を取り巻く環境はとても厳しいものだが、あまりにも日本は無感覚である。その代償を20年後30年後皆さんが担ぐことになる。5年10年先を考え経営をしてほしい。合理的な判断ができる人間になっていくために一流塾はヒントを与えてくれる場所であると、お言葉を頂きました。

渡邊氏からは、人生は修羅場、土壇場、正念場を潜り抜けることで人間力が高まるといったお話しをされ、また人生は、冒険をし続けることであり、そのため嗅覚を磨いてほしい。そして、自身の一流塾という人生道場での縁を大切にし、人生を磨いて挑戦してほしいと塾生を激励されました。



渡邊顧問

残間氏からは、ご自身のプロデューサーとしての仕事について山口百恵氏の書籍出版にかかわるプロデュースをした当時のお話しに言及し、人に何かをさせるだけではなく、その中に隠し味を足して、世の中の仕組みはかえられないだろうか、ということも考えてきたことを紹介されました。経営者である皆さんも常に好奇心をもち、自分なりに物事の裏側に隠し味を加えて、会社をプロデュースしてくださいと、お話しいただきました。



残間特別ゲスト



第12期一流塾 開塾記念撮影

懇親会では、冒頭の一柳塾長による開会の挨拶と、福川氏による乾杯の後、特別ゲストの残間里江子氏から『新しい自分創造のために』と題して卓話を頂きました。

残間氏は、まず、家庭でも企業経営でもプロデューサー感覚とディレクター能力は、とても大事で、その二つが両輪だととても強いものになる。日本人はディレクター的感覚はとても強いが、先の見えない時代には、プロデューサー的な感覚が大事である。好奇心をもって、面白い人に出会ったら、この人をどの場所・タイミングでどう活かそうかという事を考えて、時代の流れを読み、人より一歩前に行くことも大事であると話されました。令和の時代になり、オリンピック・パラリンピックが開催される今、一流塾は皆さんの好奇心に火をつける大きなきっかけになると思います。好奇心を持ち、自分と異なった人と出会っていくのも新たな可能性を広げるために大事であると話されました。そして自分の軸を定め情報を収集し、分析して、価値ある情報として発信する、自ら情報発信者になるのが大事で、そうすることで自分の価値観が相手に伝わることにつながると話されました。プロデューサーとしてのご経験とユーモアを交えたお話に塾生は引き込まれていました。



福川氏による乾杯の挨拶



特別ゲスト 残間氏

卓話後には、塾長や講師を囲んでの歓談や塾生同士の交流で懇親会は大いに盛り上がりました。

終了後には、塾生有志による一柳塾長を囲んでの放談会が行われました。塾生たちは、これまでの緊張が一気にほぐれて会話も弾み、和気あいあいとした交流が夜遅くまで続きました。



懇親会風景



放談会風景